

コード No.

提出日：令和 4 年 2 月〇日

令和 3 年度庭野平和財団 NPF プログラム
「緊急助成」(新型コロナウイルス感染拡大対応)
「ネパールにおける脆弱性の高い世帯への緊急食料支援報告書」

(一社) 日本インターナショナル・サポート・プログラム
代表理事 吉田真由美

1. プログラムの目的

【目的】

ネパールにおいて、新型コロナによる影響を受けている脆弱層を対象に、食料や生活用品等の緊急支援を行い、食料や生活用品が入手困難な状況を改善する。

【背景】

当団体は、2015 年 4 月の大地震発災以降、ネパールにおける長期的支援を継続している。

ネパールの人々は、2020 年 3 月以降、新型コロナウイルスへの対策の影響により、生計に大きな打撃を受けてきた。同国政府による、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、2020 年 3 月に初めて 4 ヶ月近くにわたるロックダウンが発令されて以来、これが解除された後も、度重なるロックダウンが行われ、移動、生活やビジネスに対する様々な制約が継続されている。また、2021 年 4 月には、ネパール保健省が、インド由来の変異株が国内で広まったとの見解を示したため、ネパール全土での対策強化が行われ、海外との往来も一時期止まったため、人々の生活への打撃は決定的なものとなった。

ネパール政府統計(2020 年 7 月時点)によると、同国の人口の 18.7%が貧困層とされているが、長期にわたるウイルス対策のための施策により貧困は更に加速し、昨年「Sharecast Initiative Nepal」が実施した調査によると、2020 年 10 月時点で無収入の世帯は 42%、世帯収入の合計が 10,000 ルピー/月(約 9,500 円)以下の世帯は 19%にもなった。現在も、経済の低迷や貧困の深刻化は続き、特に、観光業、日雇い労働や海外への出稼ぎによる収入に依存していた世帯の生活は、ますます逼迫している。生活困窮者支援は地方自治体に任されているが、自治体による物資支援はないに等しい。また、ネパールで支援を実施していた多くの国際・国内 NGO は概して資金不足に陥り、物流や移動が影響を受けているために、人道支援も激減している。このような状況が直近に改善される見通しは立っておらず、まずは日々の食料の確保に苦心している世帯への緊急的支援が必要だと考えた。

当団体は、2015 年のネパール大地震以降、同国における支援活動を継続的に行なってきたり、これらの活動を通じて、現地政府、現地 NGO やネパール各地のコミュニティとの、協力関係を構築してきた。また、文化的、民族的にも多岐にわたるネパールの社会的背景についても理解していること、カトマンズに現地事務所とスタッフを配備しており、これらリソースを有効に活かして支援を実施できると考えたため、食料を中心とした緊急支援のための助成を申請するに至った。

2. 主な活動内容・スケジュール

本事業においては、以下の活動を実施した。

活動1：受益者の選定

本事業では、新型コロナの影響により生計に深刻な打撃を受けている貧困層に対して、緊急食料支援を行った。計画当初は、250世帯への支援を行う予定だったが、最終的に、266世帯に支援を提供することができた。また、食料以外のニーズについても、受益者に対してランダムに事前ヒアリングを行い、石鹸や歯磨き粉などの衛生用品も配布した。

食料の深刻なニーズを抱える世帯はネパール全土にいるものの、新型コロナの感染対策（移動制限など）に影響を受けず、当団体のカトマンズ事務所職員を動員して活動実施が問題なくできること、コミュニティリーダーや住民から受益者選定や配布に協力が得られることなどを鑑み、カトマンズ周辺地域で支援を行うことを決めた。続いて、貧困が激しい世帯が多く居住し、食料支援を受けていないコミュニティについて、現地スタッフが調査やヒアリングを行い、以下を対象として選定した。

1. カトマンズ市クレシュワール (Kuleshwor) 地区にあるスラム街住民 (160世帯)。不衛生な環境で、治安も悪いバグマティ川沿いのスラム街に居住しており、その多くが日雇いの仕事や低収入の仕事に従事している。新型コロナの感染防止対策により、多くが生計手段を絶たれた。

2. カトマンズ市郊外のナイカップに位置するレンガ工場、チャンドラピナヤク工場およびウマデヴィ工場の日雇いの季節労働者 (46世帯)。その多くは、ネパール西部などの遠隔地で農業労働や放牧などに従事していたが、十分な収入が得られないために、家族で移動してきた人たちである。工場脇のレンガで作られた簡易的な建物に住みながら、収入を借金の返済、生活費や教育費にあてるため、長時間過酷な労働に従事している。

3. カトマンズ市カリマティ (Kalimati) 地区にある貧民街の住民 (60世帯)。その多くが、通りで野菜、スナックや洋服などの物売りをしている低所得者であり、ロックダウンが行われた際には通りで販売行為も政府により禁止されたために、わずかな収入源を絶たれて、大きな影響を受けた。

予算の都合上、支援可能な世帯数が限られていたために、もっとも貧困レベルの深刻な世帯から順番に選定できるよう、1. クレシュワール地区のスラム街については、同地域に立地するシュレー・クレシュワール中等学校 (Shree Kuleshwor Secondary School)、3. カリマティ地区の貧民街については、同地域に立地するニルバライ高等学校 (Neel Barai Higher Secondary School) から協力を得て、受益世帯の選定を行なった。クレシュワール地区のスラム街やカリマティ地区の貧民街配から、上記の学校に通学する子どもが多いため、学校職員は受益者コミュニティの状況を熟知している。このため、職員たちとの話し合いにより、適切な受益者選定を行うことができたと考える。2. レンガ工場については、工場に住み込みで働く全世帯を支援することとした。

活動2：配布物資の調達

配布物資の内容については、シュレー・クレシュワール中等学校、レンガ工場の経営者およびニルバライ高等学校の協力者と相談のうえ、決定した。以下が配布したパッケージの内容である。

貧困の深刻度から、本事業ではクレシュワール地区スラム街およびナイカップのレンガ工場により多くの食料を配布し、3. カトマンズ市カリマティ地区貧民街においては、より多くの世帯に食料を配布することを重視して、配布食料の内容を減らした。

	受益コミュニティ	受益世帯数	配布パッケージ内容
1	カトマンズ市クレシュワール地区スラム街	160	1. 米 - 25 kg 2. レンズ豆 - 2 kg 3. ひよこ豆 - 1 kg
2	カトマンズ市ナイカップのレンガ工場(チャンドラビナヤク工場・ウマデヴィ工場)	46	4. 植物油 - 1 リットル 5. 手洗い用石鹸 - 3 個 6. 大豆 - 1 kg 7. じゃがいも - 3 kg 8. 玉ねぎ - 2 kg 9. 塩 - 1kg 10. 歯磨き粉 - 1 個
3	カトマンズ市カリマティ地区貧民街	60	1. 米 - 25 kg 2. レンズ豆 - 2 kg 3. ひよこ豆 - 1 kg 4. 植物油 - 1 リットル 5. 手洗い用石鹸 - 3 個 6. 歯磨き粉 - 1 個

クレシュワールには、インドや中国等からの輸入品(主に食料)も販売されている卸売り市場があるため、配布物資はすべてこの市場から調達した。大手のサプライヤ 3 社に見積り依頼をかけた上で、価格競争力、納期のコミットメント、品質などを確認した上で、1 社を選定した。また、シュレー・クレシュワール中等学校、レンガ工場、ニルバライ高等学校とも、食料を保管できるスペースがなく、また一時保管にはセキュリティ上の懸念もあったために、当方が指定する時間に直接配布場所に運搬してくれることも条件とした。

活動3：食料・衛生用品の配布

食料・衛生用品の配布は、以下のスケジュールで実施した。

	受益コミュニティ	配布場所	受益世帯数	配布日
1	カトマンズ市クレシュワール地区スラム街	シュレー・クレシュワール中等学校	160	2121年12月3日
2	カトマンズ市ナイカップのレンガ工場(チャンドラビナヤク工場・ウマデヴィ工場)	工場敷地内	46	2021年12月14日
3	カトマンズ市カリマティ地区貧民街	ニルバライ高等学校	60	2021年12月31日

受益者選定と調達手配が完了した後に、現地スタッフと学校、レンガ工場経営者で、配布日程や場所を調整し、受益者への配布日程の連絡を行った。受益者への連絡は、学校職員やレンガ工場経営者の協力を得て、戸別訪問や電話を通じて行った。配布にあたっては、事前に作成した受益者リストに基づき、学校職員と当団体现地スタッフが協力した実施した。受付で身分証明書の確認を行い、選定された受益者本人であることを確認してから、物資を手渡し、受益者リストに拇印による受領確認を得た。受益者ではない住民が来て物資を

要求するケースも何件か散見されたが、そのような状況が起きた場合には、学校職員が適切に対応し、特に大きな混乱には至らなかった。

【計画外の活動：シュレー・クレシュワール中等学校でのオープニングセレモニーの実施】

カトマンズ市クレシュワール地区スラム街住民に対しての配布にあたっては、シュレー・クレシュワール中等学校校長からの協力を得て、同校校舎および校庭を使用して行った。同校には、受益者として選定された世帯の子どもも多く通学するため、新型コロナが子どもに及ぼした影響について、校長や職員にヒアリングを行った。貧困の悪化したのにもない食生活や衛生状態が悪化したのに加えて、ネパール人にとって大切な、日常的に楽しんでいた踊りや歌の機会が減ったこと、社会全体の雰囲気が抑圧的になったことなどにより、子どもの精神的健康に悪影響が生じているということだった。また、職員も同様に、気が重い、頭痛がする、無気力感があるなどの問題を抱えていた。

上記のヒアリング結果と校長からの要請も踏まえて、物資配布を行う前にオープニングセレモニーを行い、地元の伝統楽器の人気若手ミュージシャンによるコンサートを開催することになった。当団体は、これらミュージシャンとかねてからつながりがあり、プロジェクトを実施した実績もあるため、本件についても協力について快諾が得られた。ただし、コンサートの経費は計画外であったため、コンサート実施にかかる音響設備のレンタル費用、運搬費、ミュージシャンへの謝金などについては、自己資金で補填した。コンサートには5人の人気ミュージシャンが、ネパールの伝統楽器（サーランギ、打楽器、トウングナ、竹笛など）による演奏を1時間にわたって行い、400人以上の子ども、子どもの保護者、学校職員、近隣住民などが、歌や踊りを楽しみ、多くの喜びの声が寄せられた。

3. 助成を受けた活動の報告

別添の写真報告書参照。

4. 活動の成果

本事業の活動の背景、活動地（シュレー・クレシュワール中等学校周辺）、オープニングセレモニーや物資配布の様子を動画記録し、編集動画を作成した（動画ファイル添付）

5. 今後の課題

1. プログラムの目的【背景】にも記載の通り、新型コロナの感染拡大防止対策により、困窮していたネパールの経済はさらに低迷し、貧困が深刻化した。2022年1月時点には、変異種への感染拡大防止対策として、移動規制、社会活動の制限、ワクチン接種証明書の導入などが施行されており、今後も多くの失業や貧困の加速が起きることが予測される。

また、今回の事業の実施協力者、学校関係者、子どもからのヒアリングからも、新型コロナ対策が作りだす抑圧的社会からの圧力によるストレス、学校閉鎖に伴う子どもの教育や居場所の喪失と保護者への負担増加、特に女性や子どもの自殺の増加、ジェンダーに基づく暴力の増加など、多くの社会的問題を引き起こしている。このため、本事業のような、食のニーズを短期間でも満たすような緊急的支援に加えて、ネパールの現地文化に適した形の心のケア支援などを行っていくことが必要と感じた。

以上、

プログラム名：令和3年度庭野平和財団 NPF プログラム「緊急助成」（新型コロナウイルス感染拡大対応）

事業名：「ネパールにおける脆弱性の高い世帯への緊急食料支援」

実施団体：（一社）日本インターナショナル・サポート・プログラム

事業終了報告（写真報告書）



スラム街住民への物資配布に協力してくれた、シュレー・クレシュワール中等学校（カトマンズ市）。



シュレー・クレシュワール中等学校への、支援物資搬入の様子。



シュレー・クレシュワール中等学校にて。配布物資のパッケージング完了後の様子。



オープニングセレモニーで、ネパール伝統楽器の後継者であるミュージシャンたちを紹介する校長。



若手人気ネパール人ミュージシャンによるコンサートの様子。



コンサートには、400人以上の人々が参加した。

プログラム名：令和3年度庭野平和財団 NPF プログラム「緊急助成」（新型コロナウイルス感染拡大対応）

事業名：「ネパールにおける脆弱性の高い世帯への緊急食料支援」

実施団体：（一社）日本インターナショナル・サポート・プログラム



シュレー・クレシュワール中等学校での、配布受付の様様。



登録を済ませた受益者に物資を配布する当国体现地スタッフ。



シュレー・クレシュワール中等学校にて、受益者に物資を手渡す模様。



学校関係者、ミュージシャン、当団体スタッフの集合写真。



クレシュワールのスラム街に住む受益者宅を訪問。



カトマンズ市郊外のレンガ工場。

プログラム名：令和3年度庭野平和財団 NPF プログラム「緊急助成」（新型コロナウイルス感染拡大対応）

事業名：「ネパールにおける脆弱性の高い世帯への緊急食料支援」

実施団体：（一社）日本インターナショナル・サポート・プログラム



レンガ工場にて、受益者の登録を行う当団体現地スタッフ。



レンガ工場で、登録の順番を待つ若者たち。



受け取った支援物資を持ち運ぶ若者。



レンガ工場本部スタッフが物資を手渡す模様。



レンガ工場の労働者の多くは遠隔地から来ており、狭く、天井が低く、ドアもない空間で生活している。



ネパール西部から、郷里で仕事がないため、レンガ工場に働きに来ている一家。

プログラム名：令和3年度庭野平和財団 NPF プログラム「緊急助成」(新型コロナウイルス感染拡大対応)

事業名：「ネパールにおける脆弱性の高い世帯への緊急食料支援」

実施団体：(一社) 日本インターナショナル・サポート・プログラム



ニルバライ高等学校での受益者受付の様子



ニルバライ高等学校での受益者受付の様子